

平成 25 年 11 月 28 日・地方公共交通部会第四回資料

地方公共交通部会の果たすべき役割

土俵を整える---やる気のある地方都市を後押しする国の計画制度を整え、提案すべし---

原田昇(東京大学・工・都市工学、教授)

1. 現状認識;

海外に比べて、我が国の国民は、車に頼らなくとも暮らせるまちかどうかという点で、厳しい状況にある。

- ・わが国の公共交通は、独立採算制度のもと、企業努力に依存し、国の関与は限定的であった。
- ・クルマ社会の進展に伴う、利用者減少と経営悪化と投資不足の悪循環の中、生活の足を失う地域が増加している。

2. 基本方針;

(独立採算ではなく、)社会的に必要か否かで、公共交通サービスの存続を決定する社会を構築していく。

- ・社会的に必要か否かは、地域の一定の負担と官民の適切な役割分担の下で、ビジネスとして成立するかどうかで判断する。
- ・地域の一定の負担は、公共交通サービスを維持するために必然である。
- ・官民の役割分担は、上下分離を基本とし、加えて、一時的な負担の集中を緩和するための補助制度も整える。
- ・新しいルールのもと、企業努力により適切な投資と利用者増加と経営改善の好循環が可能となる地域を増やしていく。

3. 地方公共交通部会の役割;

国の役割を明確にし、実践する仕組みを整えること

やる気のある地域を後押しできる仕組み、計画制度を整え、上手に運用する

- ・計画制度・・・計画立案から実施、評価の手続きとそのルール(補助制度など)

◎わが国において、車に頼らなくとも暮らしやすい街をより多く定着させるために、土地利用と公共交通の整備を一体的に進める土地利用・交通戦略を立案し、実施し、評価し、それらを繰り返す計画プロセスの義務付けと、その実現を支える補助制度の創設を、(この部会の)目標のひとつとしたい。

以下、公共交通を中心に据える土地利用・交通戦略について、関係者の理解を深めるために、必要性、計画プロセス、制度の三点について、説明する。

★土地利用・交通戦略の必要性

- ・交通計画の目的とは、人間らしい生活に必要な諸活動をアクセシブルにすることにある。
- ・そのためには、土地利用と交通のバランス、特に、重要な活動施設と公共交通サービスの空間的・時間的整合性が重要である。

- PPT1. 都市密度と自動車利用(全国都市PT調査パンフレット)
- PPT2. S市における一日の人の動き(講義資料、羽藤先生提供)
- PPT3. A市における社会的排除の実態(交通工学、原田論文参照)
- PPT4. 時空間アクセシビリティによる活動可能性・・・車とバスの相違(講義資料)
- PPT5. 明るい将来 1. 暮らしやすい都市構造(講義資料)

★土地利用・交通戦略の計画プロセス

- ・土地利用・交通戦略の計画プロセスとして、PPT8に示すプロセスが望ましい。
- ・ビジョン(上記)、参加民主主義、戦略的アプローチが、ポイントである。
- ・この「計画プロセス」の下で、様々な改善提案がより効果的に進むようになる。

- PPT6. 交通計画の工具箱(講義資料)
- PPT7. 交通システム分析の基本構造(講義資料)
- PPT8. **戦略的アプローチ**(=不確実性を考慮した計画プロセス)(講義資料)
- PPT9. 「市民」・「企業」と共に歩むために(講義資料)
 - ・実効性のある建設的な参加⇒観客民主主義から参加民主主義
 - ・やる気のある交通企業が活躍できる「契約」制度
- PPT10. 土地利用・交通戦略の基本プロセス(講義資料)

★土地利用・交通戦略を支える計画制度

- ・我が国の土地利用・交通戦略を支える計画制度は、計画主体の法的位置づけ・機能・補助制度と連携という点で、諸外国に比べて、弱い。

- PPT11. 都市圏交通計画制度の比較(講義資料)
- ・この制度の弱さは、公共交通利用の相対的な低さの重要な要因である。
 - PPT12. 世界の都市内鉄道の輸送状況(新谷洋二編「都市交通計画」)
 - PPT13. 国際比較；都市圏規模と公共交通利用(阪井清志論文)
- ・諸外国のように、計画立案義務を課し、提案を評価し、補助を決定し、その結果を事後評価し、次の計画改善に結びつけるという、計画プロセスとの連携が弱い。
 - PPT14. 都心交通計画の体系[アメリカ](屋井鉄雄論文)
 - PPT15. 計画プロセス・評価制度(高見淳史論文)
 - PPT16. 関連資料一覧・・・交通まちづくり研究会など

以上